

防波堤・遊歩道

海洋土木構造物の堅いイメージを覆し、心地よい交流空間を創出

【大島港整備事業】

事業概要 2011年グッドデザイン賞受賞

福岡県宗像市大島
外防波堤、内防波堤、釣り堀、遊歩道、磯場、砂浜、渡橋



形状を地形に合わせた遊歩道

プロデューサー：福岡県（北九州県土整備事務所河川砂防課砂防港湾係）、財団法人福岡県建設技術情報センター（営繕指導課）、宗像市役所（産業振興部商工観光課）
ディレクター：柴田久（福岡大学工学部准教授）、島谷幸宏（九州大学大学院工学研究院教授）
デザイナー：柴田久（福岡大学准教授）、福大景観まちづくり研究室（石橋知也、坂口浩昭、松尾健史、岩佐潔則、豊福晃弘、小野紘平、福永佳代子）、三洋コンサルタント（構造設計）、三島設計事務所（トイレ構造設計）
※所属は、2011年4月現在

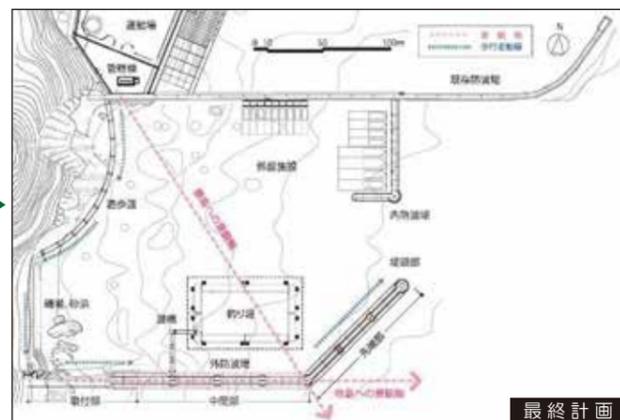
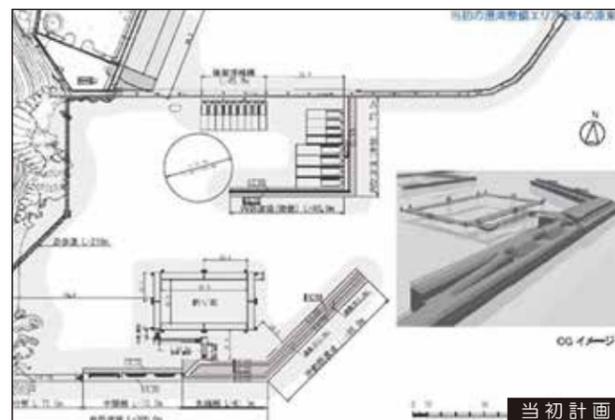
整備の背景

宗像市沖に浮かぶ大島は、雄大な自然と古い歴史、そして新鮮な海の幸といった魅力あふれる島であり、夏場を中心にキャンプや海水浴、釣りを目的とした観光客が多く訪れている。そこで、地域が有する自然等の資源を活用し、地域の活性化を図るため、海への眺めと後背地の地形に配慮した遊歩道等の親水施設を整備することで自然とのふれあいの場を創出し、豊かな海洋資源を有効活用した釣り施設を整備することで離島振興を目指した。

コンセプト

自然環境と海への眺望に配慮した「ゆるやか」で「楽しめる」水辺空間の創出

【計画変更】



【整備のポイント】



防波堤の圧迫感を軽減するため、曲線形状を多用し、加えて張り出しをすることによって施設利用者が往来する天端をより広く確保した。



堤体に座りやすい高さを考慮した連続的な段差を設け、釣り人や家族連れに配慮した造りとした。



堤頭部に展望スペースを設け、誰もが楽しめる空間とした。



遊歩道横の浜辺は、コンクリートで被覆する計画であったが、天然の磯場や砂浜を可能な限り残すため、石積み護岸に変更した。



陸から外防波堤、釣り堀等へアクセスするための遊歩道は、埋立道路とする予定だったが、磯場の環境を保全するため、後背地の地形に沿った曲線的な海上歩道橋へ変更した。



砂浜や磯場、遊歩道からの視線を考慮し、釣り堀に設置する転落防止柵は目立たないものを採用した。



トイレと休憩スペースを一体的に整備し、屋根の形状は前面の護岸の階段に合わせて曲線形とし、ベンチは防波堤の向こうに広がる水平線が見えるよう高さを設定した。

委員コメント

柴田久（福岡大学工学部教授）

- ・本施設の従業員はほとんどが島民であり、釣り指南や魚さばき教室等を通じた島外の人々とのコミュニケーション、繋がり場の創出されている。人口減少や漁業の衰退が問題視される大島の人々にとって、新たなやりがいと賑わいの拠点をつくりだした事例といえる。
- ・離島振興を目指す施設計画に対しては、単に観光活動のできるハード整備という観点でなく、本来、島が持つ景観の美しさや自然環境の豊かさに配慮したデザインが必要である。
- ・ゴツゴツとした印象や圧迫感が懸念される海洋土木構造物の存在を、デザインの工夫によって、より人々に親しみやすい場所にしていく努力は今後の公共事業において極めて重要である。

（今後、長崎県において類似施設の整備を行う際に注意すべき点）

- ・海岸や港湾を巡る施設整備においては多くの機能的な制約条件が存在するため、デザインの工夫や配慮が付け刃的（お化粧的）に行われ、かえって景観を阻害するケースも全国に散見される。
- ・よって整備に対する検討の早い段階から、景観や周囲の自然環境に配慮した施設形状・構造について、具体的に協議する必要がある。

事業主体コメント

福岡県県土整備部港湾課

- ・約5年間という短い期間と限られた予算の中、豊かな自然環境や優れた景観を保全しながら利用面、安全面に配慮した設計が必要であった。
⇒ 検討ワーキング会議で決定された基本コンセプトを基に、県・市・設計コンサル・景観の専門家が一同に会し、構造物毎に景観・構造計算・予算・安全・利用の面から何度も議論を重ねながら設計を進めた。その際に模型を使用することで、詳細についても確認を行いながら進めた。

（整備を終えて）

- ・事業当初は議論がよそよそしかったが、形が出来上がっていくとともに設計・施工チームの絆が深まり効率的に議論が進んだ。設計のポイントは、遊歩道の線形は背後の地形に合わせたこと、各構造物の角は全て丸みを入れることで周囲に馴染ませたこと、歩く人の目線を強く意識したことである。大島が持つ景観の美しさや自然環境の豊かさを活かした整備を行うことにより、観光客の増加と地元雇用の創出に寄与することができた。